

鉄が足りない??

今年の秋から、自動車メーカーでは鋼板不足により、生産ラインの停止とのニュースが新聞紙上に躍りました。造船、建機関係でも鉄板の不足が伝えられています。一方、建設関連からは、鋼材不足で建設中断などという話は聞こえて来ません。なんと不思議な話です。高炉メーカー各社は、(といっても現在は2社ですが)高水準の生産を続けており、日本全体でも今年度の推定で、過去最高に迫る一億一千万トンの生産を続けているのです。

その中で、品不足といった事態は、鉄の品質に起因しています。自動車鋼板などは、車種ごとに細かく成分仕様が決められていて、非常に生産性が悪いのです。ですから、ある自動車メーカーが高炉メーカーに対して板の種類を限定する(減らす)といった措置を取りましたが、これは、生産性を上げて、納品してくれという事に直結しているのです。造船各社もバックオーダーを数年分抱えていると言われおり、当面製造レベルは高水準を維持すると見られ、鋼板の確保が重要となっています。ところが、建設関係では不足は伝えられていません。これは、中国などから比較的低品質な鉄板等



長沼商事株式会社
埼玉県所沢市林 1-306-7

(それでも十分なのですが)が輸入されている事、流通各社が春先から秋需をにらんで在庫を積み増したが、思ったより盛り上がりず、在庫を放出している事によります。それでも余剰感はありません。横ばい推移となっており、全体的に眺めてみると、高品位品は、極端な品不足、低級品(汎用品)はバランスといった所でしょうか。スクラップについても国際価格に連動しており、今は高くなりすぎた国内価格の調整局面といった感じではないでしょうか。

カスケードリサイクル

あまり、聞きなれない言葉ですが、リサイクルの種類の中にカスケードリサイクルという言葉があります。代

表的な物として、ペットボトルなどがあります。オープンリサイクルとも言われておりますが、要は、同じものに戻らない、他の姿に変えてまた活躍するといったものです。例えばペットボトルの場合、使い終わると、次の段階ではハンガーや、繊維などに再生され、その次の段階では、熱源として(サーマルリサイクル)利用され完結します。なにやら、日本でも流行した(?)デフレスパイラルの様ですが、リサイクルとしては、あまり優等生とは言えそうにありません。しかし、直接埋め立てをしようよりはいいと思います。

一方、アルミ缶などは、再びアルミ缶に戻す事が出来、実際にその様にリサイクルされています。これをクロージドリサイクルと言います。また、アルミ缶の場合、商品価値も高く、消費者の方々も我々リサイクル業者に売却出来る為、回収率も高いのです。さらに再生の為にエネルギーが三パーセント程度と、少なくて済みます。だからこそアルミ缶はリサイクルの優等生と言われているのです。

さて、廃棄物(もともとは製品)の中には、多品種の混合した物も多く、カスケードリサイクルといった手法に頼らなくてはならないものも沢山あります。我々の身の回りにある大半の物が、複数の素材から出来ています。例えば、電話機などはどうでしょうか? 外側だけ見ても、3種類以上のプラスチックが使われていそうです。これを分別するには、熟練した人が一つ

一つ分解・選別しなければなりません。これはとても現実的とは言えません。しかし、どのプラスチックも石油製品であり、燃やせばエネルギーとなります。これならプラスチックだけに分別すれば利用出来ます。本来は、メーカー側で素材の統一を図ればいいのですが、どうしても商品の性能や美観を優先してしまいます。それは我々消費者が性能・美観を優先してしまっからです。車のバンパーなども以前は、黒いウレタンバンパーでしたが、今ではすっかり見かけなくなりました。塗装が著しくリサイクルを阻害するのですが、どうしても美観優先となってしまう様です。実は、リサイクルの優等生と言われているアルミ缶でさえ、表面の塗装が国産の物は厚く(重ね刷りしてあり)リサイクルの阻害要因となっているのです。我々も、性能・美観を優先すべき部分(オープンリサイクル)と、消耗品の様に割り切る部分(クロージドリサイクル)とにきちんと区別して考える必要があると思います。そして上手にライフスタイルの中に組み入れていく事が必要なのではないのでしょうか。

今年、企業の社会的責任が厳しく問われた年でもありました。弊社もより一層気を引き締め、皆様と共に歩んで行きたいと思っております。